

校長よりメッセージ『竜北生、G o !!』（竜北生の皆さん・保護者の皆様へ 35）

フェスティバル、スタート!!

校長 尾崎 淳一



竜北中学校のフェスティバル、「第49回文化祭」が、素敵な余韻を残して幕を閉じました。様々な場面で竜北生の「本気の姿」を目にすることができ、幸せな一日でした。私は、わくわく感が止まらず眠れないし、ステージ出演に係る「仕込み」が必要だったために、月がまだ綺麗な時間に、「竜北ジュニアハイスクール・スーパーアリーナ」へ出現していました。いよいよフェスティバルのスタートです。

話は変わります。私は、県内の数々の学校を訪問した経験がありますが、その学校の充実ぶりを測る「ものさし」が幾つもあるのです。「挨拶はできるか」「トイレのスリッパは揃っているか」「教室の机やロッカーは整っているか」「壁に落書きはないか」「授業に活気はあるか」等々です。先日の研究発表会で多くの参加者から褒めていただいたように、竜北中学校は何の心配もありません。竜北生の皆さんのお蔭と感謝しています。

そして、もう一つ、「心を合わせて歌えるか」というのも、重要な「ものさし」と考えます。学級、学年、全校の気持ちが一つにならない限り、心に響く歌は歌えないからです。結論から言えば、今年度の「合唱コンクール」には感動しました。これまでも、校舎内のあちらこちら、時には中庭からも美しい合唱の声が響いていましたが、完成された竜北生の歌声がこれほどのハイ・クオリティーとは、素直に驚きました。私は、生まれてからウソも冗談も言ったことのない実直な人間ですし、お世辞もなぜかすぐにバレるから言いません。だから、私が素晴らしいと言ったことは、本当に「素晴らしい」のです。



結果として、「金賞」「銀賞」「銅賞」と順位はつきましたが、本番までの努力は全てのクラスにとって価値あるものです。不思議とうまく進まない時期がありますが、それを乗り越えると合唱は完成へと近付きます。心が一つになっていくからです。私は審査員として全クラスの合唱を聴きましたが、来年度は依頼があっても、固く辞退したいと考えています。順位など意識せず、真っ白な気持ちで竜北生の歌を楽しみたいな、と思うからです。

この日の早朝、校内を巡りました。竜北生の皆さんが心を込めて制作した作品や絵画、温かい黒板メッセージなど、「文化の薰り」で満たされた空間が広がっていました。ある場所には、テレビドラマに出演しているようなイケメン俳優が描かれた「顔はめパネル」が設置っていました。これは、美術部員が共同で制作した「大作」です。そして、イケメン俳優と思っていたモデルは、「私・尾崎淳一」とのことです。「そうだよね！」と、私は大きく頷き、心の中で密かに微笑みました。そういえば、合唱コンクールの審査員である私に、「〇年〇組をお願いします。朝、顔はめパネルをやってみました」と、買収を持ち掛けてくる竜北生がいました。正義感の塊である私はそんな話に乗りませんが、彼のクラスは「金賞」に輝きました。ご利益があるのは確かなようですね。



2025年も残りわずかです。「竜北ライフ」の更なる充実に向けて、「竜北生、G o !!」

今週になって、インフルエンザまたは発熱による欠席者が急増しています。いくら元気な竜北生でも「感染症」には逆らえませんね。朝の検温やマスク着用等にご協力ください。

（令和7年11月12日）